

# スウェーデンと日本の就学前教育の相違とその考察 —就学前教育現場の見学と就学前教育関係者との懇談を通して—

横井 一之\*

## はじめに

筆者は 2018 夏スウェーデンの幼児教育を見学する機会を得た。見学した内容を中心にまとめる前に、スウェーデンの幼児教育の由来と現況を概観し、それらを元にして今後の日本の幼児教育の進み方の参考としたい。

## 1. スウェーデン就学前教育小史

大野 歩 (2015) によると、スウェーデンの就学前教育の小史は表 1 のようになる。

表 1 スウェーデンの就学前教育の小史 (大野 歩 (2015))

| 年代     | 事 項   |
|--------|---|
| 1934   | 低出生率による人口減少が懸念される。3つの人口政策「家族政策」「労働政策」「男女機会均等政策」子どもは、4歳ぐらまでは社会的存在とはみなされないという認識が一般的通念だった。   |
| ～1960  | 「女性は家庭で子どもの世話に専念すべきだ」という考えが人々の意識に深く根ざしていた。5～6歳児を対象にした幼稚園 (lekskolan) では、フレーベル理論に基づいたクロスステッチやバター作り、糸つむぎ、木工活動を行った。ストックホルム市内の幼稚園は4～7歳児全体の10%、保育所は0～7歳児全体の4.5%が利用した。  |
| 1960年代 | 女性議員の急増。保育所の定員が2万人から6万人に増員された。母親手当が3か月から6か月に延長された。「すべての子どもに保育を提供する」ことが、福祉政策のねらいとなっていった。   |
| 1970～  | 経済成長に陰り。「高福祉・高負担」→「第三の道」への修正、「結果の平等」→「条件の平等」へ路線変更。  |
| 1972   | 保育所と幼稚園を社会福祉省の管轄下で統合して「就学前学校 (forskola) と名付けた。ピアジェの発達心理学、エリクソンの社会心理学、Paulo Freire の教育実践などを学術的基盤とした。「対話教育法」「テーマ活動」「ノーマライゼーションとインテグレーション」「チーム保育」「異年齢編成」「遊びの重要性」「両親と協働」などが盛り込まれた。人間という存在へのより豊かで包括的なかわりを捉える『ペダゴジー (pedagogy, pedagogik)』という教育概念も使われるようになった。 |
| 1976   | 国と自治体連合との間で「保育拡大協定」が結ばれた。10年間で就学前学校に通う子どもが10万人、家庭の保育 (familjedaghem) へ通う子どもは約9万人に増えた。   |
| 1986   | 子どもの権利として1歳半～就学年齢の子どもに保育を保障する「あらゆる子どものための就学前学校 (forskola for alla barn)」法案が成立した。  |
| 1990年代 | 柔軟な就学制度 (7歳から始まる就学を、希望により6歳から早期就学をしてもよい) を設けたが、当初は3.2%が利用したのみ。  |

\* 東海学園大学教育学部

|      |  |
|------|--|
| 1990 | 地方自治改革が進展し、6歳児の活動を就学前学校から切り離し、基礎学校へ統合される取り組みが進む。   |
| 1996 | 保育の行政統合を目指す。「知識国家論」（新しい福祉国家への脱却）（スウェーデンの福祉国家モデルの終焉）という考えに基づく。  |
| 1998 | 6歳児を主対象とした就学前クラスの公的設置、1～5歳児が通う就学前学校のナショナルカリキュラムの制定。  |
| 2012 | PISAによるランクで、「数学的リテラシー」「科学的リテラシー」「読解力」すべてにおいて、OECDの平均値を下回るまで落ち込んだ。難民が増え、15%は外国生まれ。ストックホルムなど都市部では、スウェーデン語以外で教育を受ける権利を有する児童生徒が40%となる。 |

## 2. スウェーデンの就学前教育システムについて

### (1) スウェーデンの就学前教育のカリキュラムについて

スウェーデンの就学前教育について、鶴 宏史(2004)は以下のようにまとめている。

#### (a) 1996年以前

政府は1960年代に、就学前保育施設の6年間の保育内容と保育方法を審議する委員会を設置した。

#### (b) 就学前教育の国基準カリキュラム（ナショナルカリキュラム）の制定（1998）

1996年に教育科学省は、社会家庭省から保育所の責任を引き継ぎ、就学前教育としての保育所と6歳児の就学前クラスを統括している。このカリキュラムの制定により、「教師が遊びを基盤とする幼稚園の伝統を守れるか」という心配に対して、「親も当局も、保育所の保育者一國基準による高度な教育を受けた保育者一が、就学前教育(Pre-school)の伝統の本質を失うことなく、新しいカリキュラムのビジョンに到達するための意欲や能力を持っていると信頼している。」と明記している。

#### (2) ナショナルカリキュラムにより提示された目標

ナショナルカリキュラムでは、各保育所が達成すべき目標を次の5つのグループに分けている。

##### a. 規範と価値観（省略）

##### b. 発達と学習

カリキュラムには「就学前教育は、保護、養育、学習が一体となつて一貫性のある全体を形成する教育的アプローチによって特徴づけられるべきである」と書いてある。

そして、保育所が子どもに保障すべきこととして、

(a) 子どもの自我を発達させ、安心感を持たせるようにする。

(b) 聴き、話し、考え、自分の考えを表現する能力を発達させる。

(c) コミュニケーション機能だけでなく、子どもたちの語彙や概念、言葉を用いる能力、書き言葉への興味、シンボルの理解を育成する。

##### c. 子どもの影響

民主主義の基礎を身につける。

##### d. 保育所と家庭（省略）

##### e. 就学前クラスと学校と余暇センター開設の協力（省略）

#### (3) 改訂版ナショナルカリキュラム（2011）

大野 歩（2015）によると、ナショナルカリキュラムの活動目標が16項目から22項目と増加した。追加された項目は、主に「言語」「数学」「自然科学」「科学技術」である。追加された項目の指導内容は以下表2のとおりである。

表2 改訂版就学前学校の追加目標と具体的保育内容(大野 歩 2015)

| 追加目標 | 具体的保育内容                       |
|------|-------------------------------|
| 言語   | 他者の考えを理解しようと努める力              |
|      | 他者とコミュニケーションを図る能力             |
| 数学   | 数学の概念を識別、表現、探索、思考する能力や関連付ける能力 |
|      | 計量や時間の他に、量と順序の基礎概念の発達         |
|      | 数学的能力を用いて推論を行う力               |
| 自然科学 | 自然の循環や人間、自然、社会の相互関連に対する理解と関心  |
| 科学技術 | 自然科学の認識、探索、文章化、問いの設定をし対話する力   |
|      | 画像、テキスト、メディアに対する能力            |
|      | 日常における科学技術やその作用を探索する能力        |

(4) 具体的な保育の考え方

サーレム市立保育園長 Evelina Karlsson 女史講演より

論題「就学前学校における男女平等」

スウェーデン、サーレム市教育部 2018. 8. 23. サーレム市役所

① 講演より

表3 Karlsson 女史(就学前学校における男女平等より)

(記録: 元名古屋短期大学教授 野津 牧氏)

|  |
|--|
| <p>私が勤めている就学前学校で男女平等についてどのように注意をして取り組んでいるかについて紹介したいと思っています。持続可能な社会を作るためには就学前学校でどのように取り組めばよいかというのが、今日の私のタイトルです。</p> <p>まず、サーレム市で就学前学校がどのように運営されているかについて簡単に説明します。</p> <p>サーレム市の保育の体制は、教育部長(10の就学前学校全体の園長)がマルセラさんと児童福祉部門のトップです。その下に補佐するコーディネーター、そして2園から4園を担当する補佐(副園長)が3名います。</p> <p>註3-1) 園長・教育部長(1)ーコーディネーター(1)ー副園長(3)ー就学前学校10園(スタッフ130名・園児600名)</p> <p>就学前学校は大小あり、30名から100名の所もあります。イタリアのレッジョ・エミリアの理論を基に実践しています。</p> <p>註3-2) 公立園の場合、レッジョ・エミリア方式を導入するかどうかは自治単位で決めている。</p> <p>私たちは、子どもたちは一人の人間として尊重しています。</p> <p>私たちは、指導よりも一緒に探検する、探索するというので取り組んでいます。</p> <p>私たちは、ドキュメンテーションをやっていますが、これは保護者、子どもたちと一緒に達成していくということで取り組んでいます。</p> <p>持続可能な社会として進展するというのですが、これはエコだけでなく経済的な面も含まれます。節電も取り組んでいますし、ゴミの分別、リサイクル、リユース・再利用にも取り組み、グリーンフラッグを持っています。持続可能な社会に向けて取り組むと認定されます。(給食の食材は)最低35%はエコ食品を使っています。35%は最低の数値です。</p> <p>註3-3) グリーンフラッグは、キープスウェーデンタイダイ財団が、学校・就学前学校全体で環境問題に取り組んでいることを認証する制度。</p> <p>註3-4) スウェーデンは、医療・教育・福祉サービス・住宅保障と共に環境を国の柱としている。</p> <p>いじめ、差別への取り組みをいかにやっていくかが問題です。スウェーデンでは、性、宗教、障がい、年齢、外国人、少数民族などのマイノリティの人などを差別することは法律で禁止されています。園内でこのような問題が発生すれば全力を挙げて取り組まなければなりません。</p> <p>これは(ナショナル)カリキュラムです。民主主義の社会にするにはどのようにしなければならぬか。そして、スウェーデンの社会は平等です。いじめ、差別はできない。男女の差別がないように教育していくよう努力しています。</p> <p>サーレム市の就学前学校には、世界から26名の父親か母親、54名の子ども、スタッフは11名が外国から来ています。</p> <p>コミュニケーションがうまく取れないときは、身振り、通訳を通す、メモを渡すなどしています。サーレム市では、外国から来た子どもたちは、母国語を学ぶ権利があり、週40分間特別の教師が来ます。</p> <p>(保護者も)宗教や言葉の違い様々なギャップがありますが、全部一か所に集い交流する機会があります。話し合い、交流することが大事です。話すことにより、新しい知識を得ることができます。私たちが新しい知識を得ることができ、とても良いことだと思っています。</p> <p>この人たちにこのようになってもらいたいではなく、この人たちと一緒に社会を築いていきます。</p> <p>いろいろな就学前学校がありますが、一つ共通した規則があります。きまりと言った方がよいかもかもしれません。就学前学校には、紙に書いてないようなきまりがあります。何かもたらたらありがとうと言うとか、人がいる場所で騒がないなど、しつけというか、知識です。このような規則は、社会で必要です。社会は機能しません。ここにいる人すべてが同性愛でないし勝手に決めつけない、見た目や女性だからとかという自分の先入観を押し付けない。</p> <p>書いてない決まりを批判的に見る必要があります。このような規則が本当に社会に必要なのか、また、そのようなことを知らない人を社会から除外することないようにしなければなりません。</p> <p>自分自身がやっていると感じつかないことがあります。例えば、同僚でもやっているとはいけないことをやっていれば、すぐに指摘します。髪を止めるピンがありますね。それを、女の子だけがするものと言えば指摘し訂正します。</p> |
|--|

自分では気づかないで言っていますから、周囲が言ってあげる必要があります。

「ママに洗濯してもらおう」といえば、「パパやママでしょう」と、訂正します。保育では自分の言っていることは気づきませんが、他人が指摘することが大事です。

スウェーデンの歌は、男の子の歌が多く、明るい歌は必ず男の子の歌です。男の子の歌が多いですが、男の子と女の子が出てくる歌を選びます。歌詞を変えて男女が出てくるようにします。男性は、ハンですが、しばしば(女性はホンですから)ホンに変えて歌います。ヘンは中性を表し、男性にも女性にも使う言葉ですがあまり普及していませんが、ヘンに言い換えることもやっています。

男の子でもなく女の子でもなければいろいろなことができます。男の子、女の子となればできることが限定されます。

6歳のアントン君が言ったことです。

「私がもし女の子であり男の子であれば、いろいろなことができるでしょう。今は、男の子だから50%しかできない男の子のすることをやらないといじめられる。両性であれば、バレイもできるし、アイスホッケーもできる」と言いました。

男の子だからこうしなければいけない、女の子だからこうしなければならぬではなく、子どもであれば何でもできるということが大事です。

どう実践するかですが、私たちは男の子、女の子、そして年齢でグループに分けることが往々にしてあります。「女の子」ではなく、例えば「友だち」という表現に変えます。

感情を表現することも大事です。悲しい時は泣かせる。言葉で表現させるようにします。自分の思っていることを言葉により表現させます。そういうことから、ほかの人を配慮する気持ちも出てきます。スタッフも自分の気持ち、例えば怒っているときは、そのように表現すべきです。

註3-5)感情を爆発させて叱るということではない。

「男の子は泣いてはダメ」という慣習があります。女の子は怒ることを抑制してきました。心の中にあるものをオープンにして、心の負担を軽減する必要があります。

男の子が殴り合っていたら、男の子だからではなく、最後には仲良しになるんだからと伝えます。

男の子が女の子にちょっかいを出すと、「それはあなたのことが好きだから」という冗談を言いますが、こういうことは絶対に言いません。スタッフが言っているから、子どもたちも大人になると言うでしょう。好きなんだからという表現は、暴力を肯定することになりますから、暴力を肯定することは言うべきではありません。

おもちゃを使い、伝えることもあります。(画面を見せながら)悲しいといえば、バットマンがハグしているところですよ。

次の絵は、バットマンがケーキを焼いている絵です。(次の絵は)プリンセスが男性の申し出に「ノー」と言っている場面です。自分を尊重することを伝えています。遊ぶことにより学び、遊びながら教えます。ファンタジーやマジックも取り入れます。いろいろなことを経験させ、どんな遊びも経験させます。

服装では評価しません。服装を見て、「男の子だから似合う」とは言いません。

いくつくらいポケットがある

衣装を着て遊ぶ時は、何を着ても止めません。

男の子がスカートをはいた時は、素材をほめたりしますし、女の子の場合は「かわいい」とは言いません。両方の性で使える言葉を選びます。キラキラしたものは、みんな好きです。

(スウェーデンの)本を分類すると、92%が男の子の本です。1%が障がいのある子をテーマにした本です。白人をテーマにした本は97.7%です。子どもたちが住んでいる社会はそうではありません。社会を反映した本を選ぶようにしています。サーレム図書館とも緊密に連携しています。

子どもが絵本を持ってくると読み、そして自分たちもやらせます。

ピッピは女の子ですが女の子らしくありません。年1回、ピッピをモデルに算数とドラマの科目でやっています。

ソーセージを干している絵ですが、子どもたちも絵と同じように(干して)やってみます。

## ② Karlsson 女史の講演のまとめ

表4 Karlsson 女史の講演のまとめ

- ・サーレム市保育部門は、教育部長1名、補佐が3名で各2～4の就学前学校長を兼務している。
- ・就学前学校の規模は大小あり、定員30名～100名である。
- ・子ども一人ひとりを大切に保育を行っている。
- ・エコや経済的に持続可能な社会を目指して保育している。
- ・スウェーデン社会は平等で、いじめ、差別がないように指導。
- ・大人も子どもも、感情の表出は大切にしている。
- ・外国から来た子どもの母語は大切にしている。
- ・日ごろから性別を固定する教育は意識的に認めていない。
- ・長くつ下のピッピが人気で、算数の教材に登場する。

## 3. 保育園見学より

### (1) スウェーデン、ソルナ市立ポーフォーゲルン就学前学校

レンナ・バルグ園長先生 2018.8.22.

① ベルグ園長先生の解説より

表 5 ベルグ園長先生の説明（記録：野津 牧氏（前述））

ソルナ市の南部にある孔雀就学前学校は、地下鉄の駅から徒歩3分、閑静な住宅街にあり、小学校が隣接している。今年の新年度は、8月21日であり、訪問日は翌日に当たる。

園舎は築50年で、園舎のそばは森になっており、野うさぎ、リス、シカがいる。

スウェーデン語以外の母国語を持つ子どもは年により違うが8%から10%である（ストックホルムでは多くない）。各クラスに玄関と5部屋がある。

ドキュメンテーションは、壁面に飾るほか、各自のファイルが置いてあり、子どもたちの創作活動の絵などが閉じてある。ファイルは自分の子どもの分のみ見ることができる。各クラスにはアトリエがある。

以下、ベルグ園長の話を紹介する。

園児は、1歳から5歳まで、計75名います。クラスは4クラスで、内訳は1歳～3歳児クラスが16名で職員3名が2クラス。4歳～6歳児クラスが21名と22名の2クラスで保育者4名です。このうち新年度の入園児は15名で新入園児の年齢は1歳児に限りません。

夏の7月15日から8月15日までは、1クラスに減らして受け入れています。開園時間は同じです。

保育教諭が4.5人、保育士が11名です。チームを組んでおり、差別などはありません。

開園時間は、6:30から18:00までです。

日課は、以下の通りですが、多くの子どもは8時から16時くらいまでを利用しています。

|             |                  |
|-------------|------------------|
| 6:30        | 開園               |
| 7:45        | グループ分け           |
| 8:00        | 登園している子どもの朝食     |
|             | 午前の活動（プロジェクト活動等） |
| 11:00       | 昼食（小さい子どものクラス）   |
| 11:30       | 昼食（大きい子どものクラス）   |
|             | 朗読・遊戯等           |
| 14:00～14:30 | おやつ              |
|             | 自由遊び             |
|             | 保護者迎え            |
| 16:30～      | 1組での活動           |
| 17:00       | フルーツタイム          |
| 18:00       | 閉園               |

註 5-1) 両親は、フレックスタイムを活用し、父親が早番のときは母親が遅番で子どもを就学前学校に送り、夕方は勤務を終えた父親が就学前学校に迎えに来るなどの工夫をしている。実際に就学前学校の見学中も14時40分頃、父親が2人の子どもを迎えに来ていた。

新入園の保護者の保育参加は、原則2週間で、1週目は全日、2週目は1日のうちの一部に参加します。子どもが園にスムーズに馴染む以上に保護者が子どもと離れた生活になじむのが目的です。

送迎する人は、保護者など園に登録した者に限られます。

なお、就学前学校運営への保護者参加では、春学期と秋学期の2回、各クラスから2名ずつの計8名と園が話し合いをします。

ソルナ市は、レッジョ・エミリア方式を取り入れています。現在はあまりこだわらずスウェーデンのやり方を取り入れながら実践しています。

<質問>

※服薬が必要な子どもはどうしているか。

一服薬が必要な子どもは、医師からの指示があれば園で服薬を行うことがある。

※子どもが体調不良になった時は。

一子どもが発熱など体調不良になった時は、保護者が迎えに来る。

※今年度のプロジェクト活動のテーマは。

一今年度の園のテーマは「遊びを通して学ぶ」です。

② ベルグ園長先生の解説のまとめ

表 6 ベルグ園長先生の解説のまとめ

- ・スウェーデン語以外を母語とする子どもが10%ぐらいいる。
- ・4クラスあり、1～3歳が16名ずつ2クラス職員6名、4～6歳が2クラスあり、各21名と22名保育者8名です。計75名。
- ・各クラスに玄関と5部屋がある。
- ・開園時間は6:30～18:00です。
- ・日課は表5参照のこと。
- ・朝夕の送迎は、両親が交代で担当することが多い。
- ・保護者も参加して、1、2週間の慣らし保育がある。
- ・春秋年2回、保護者の代表2名×4クラスの懇談を行う。
- ・本市はレッジョ・エミリアの保育を取り入れているが、スウェーデンのやり方と融合して指導している。

## (2) スウェーデン、サーレム市立ソールグレンタン就学前学校

エヴェリーナ・カールソン園長先生

表7 カールソン園長先生の説明（記録：野津 牧氏（前述））

年少クラス15名が2クラス、年長クラス24名が1クラスの計54名の園である。  
旧タイプの園舎で、各クラスに玄関と5つの部屋がある。  
レッジョ・エミリア方式を取り入れているため、各クラスにアトリエがある。乳児クラスの昼寝は、戸外であり、各家庭から持参したベビーカーの中で寝る。よほど気温が下がらない限り戸外である。  
ソルナ市と同じように、新学期ということで保護者が多く来園していた。  
市の就学前学校のテーマは、「持続可能な社会を就学前学校でどのように取り組むか」であり、ごみの分別、リユースなどに取り組んでいた。年少、年長とも室内の棚、壁面に植物、昆虫などが多数配置されている。  
各クラスのプロジェクト活動のテーマは、子どもの関心に合わせてこれから決めていく。  
ドキュメンテーションのように、各クラスの手の届くところに記録用のデジタルカメラ、タブレット、が置いている。

### (3) 保育園見学まとめ

スウェーデンのソルナ市とサーレム市の公立保育園を見学した。1つはレッジョ・エミリア方式と従来の保育とを融合した保育を展開し、もう1つはこのレッジョ・エミリア方式を全面的に取り入れていた。後者には、各クラスにアトリエがあった。レッジョ・エミリア方式はある課題に集中的に取り組むプロジェクト活動と作品を掲示板に貼ったり、ドキュメンテーションという活動の様子をまとめたファイルを作成し、子どもや保護者が当人のものをいつでも自由に閲覧できる状態にしてある。

スウェーデンの学校では平等を重んじ、ESDを意識して保育している。これらのことは、見学中も子どもと一緒にいることを保育者は嬉しく思っており、保育者は子どもと関わることが楽しく、子ども一人ひとりを大切にしていることがにじみ出ている。

## 4. 考察

初めに本稿の中で、保育所と就学前学校が混在していることを謝りたい。表1にあるようにスウェーデンでは1986年から就学前教育はすべて教育省管轄となり、子どもが通うところは就学前学校という言葉に統一された。しかし、通訳の都合もあるかもしれないが、今でも両方の言葉が用いられているのに準じた。

日本とスウェーデンを比較すると、税率の差、0歳児保育の有無をまず挙げることができる。つまりスウェーデンの税率は50%近く、育児休暇は480日認められているので0歳児の就学前教育はない。乳飲み子は保護者が世話をする。男女平等や子ども一人ひとりを大切にすることは日本でも共通することではあるが、その徹底ぶりは大きな差がある。

根本的な人間観、子ども観に大きな差があるので、そこを指すと呼べることはできるが、直接的に参考とすることはないと考える。

一方、保育内容についてはそのまま導入することが可能なものがあると考えられる。具体的には、プロジェクト活動、保育評価においてドキュメンテーションを作成することなどは日本でも導入できると思った。森のムツレで紹介されている「森の幼稚園」については、ガイド兼通訳の方に「ストックホルムにはどこにでも森があり、森で遊べます。森の幼稚園は特別なことではありません。」と説明を受けた。日本で「森の幼稚園」がかなり実施されている理由がよく理解できた。

ところで、保育内容について見学中に気付いたことを述べる。日本では、幼児教育は5領域に分かれ、保育内容を語る時その名称が用いられる。しかし、スウェーデンでは表2に示したように保育内容の教科として「言語、数学、自然科学、科学技術」という言葉を用いる。見学中に通訳が「今は数学の学習をしています。丸とか三角を調べています。」という。見学者の一人が「日本では形の勉強とか幼児期の科目名を使うが、スウェーデンでは用いないのか」と尋ねたが、通訳からは「幼児期の数学はこういうことを勉強するのじゃ。」という回答である。通訳が一般の方で、特に幼児教育が専門でないので、幼児教育の領域名や科目名を知らないものだとその場は考えた。よく日本の幼児教育で夏に会う事例に例えれば、「朝顔の色水遊び」は化学の勉強をしていますということになる。この場合、化学という高校でしか用いない言葉を用いると「学び」が限定されてしまう感

じを日本で鍛えられた保育者である筆者は感じてしまう。「色水遊び」は「花をつぶして、ビニル袋の中で、色水が出るまで揉む」という活動をする、領域「言葉」、「健康」、「環境」、「表現」の指導内容を含んでいるように考える。スウェーデンでは、1つの活動がいろいろな教科に関連しているのは当たり前で、中心的課題の教科名を、しかも高校で用いる教科名を挙げて指導するのが普通である。

この考え方は、幼児教育を担う保育教諭養成においても普通で、8月22日にソーデルトーン大学のディドン女史より保育者養成について講演をいただいた。2日後に、同行の理科教育の教員と大学を訪れ理科教育指導法について尋ねたところ、ディドン先生は7部門ある教員養成のプロジェクトリーダーであるが、所属は生物学講座であった。生物学講座には、ディドン先生より年上の男性教員が他に3名所属しているが、保育者養成に関係する人はいなかった。よって、大学訪問時は本大学の教員養成システムが話題の中心で、同行の理科教育の教員のねらいである理科教育法指導事例があまり話題とならなかった。つまり、本大学には、幼児教育を専門とする講座はなく、講座は日本の高校レベルの教科名で構成されている。しっかり聞き取れなかったが、他に化学、物理など含め全部で29講座あるということだった。その中から委員会方式で、就学前教育の教育実習を担当するものが招集され、そのリーダーが、大学教員経歴15年目のディドン先生ということだ。また、生物講座のリーダーK先生のお話を伺った限りでは、本大学へはCollege終了後入学するというので、その年齢を尋ねると22歳以降ということだった。おそらく、教職大学院だろう。

このように、2国間では同じ自由主義国ではあるが、制度にかなりの差があるので単純に比較するのは控えたい。

さらに書き加えたいことは、ナショナルカリキュラムの総則にあたるものである。最初に記述されているのは、「1. 就学前学校の価値観の基礎と任務」で表8のように記述されている。

表8 ナショナルカリキュラム「基本的な価値観」

|  |
|--|
| <p>就学前学校は民主主義という価値観の基礎に立っている。(中略) このため就学前学校の事業は、基本的な民主主義の価値観と合致するように運営しなければならない。就学前学校にかかわる誰もが、人間一人一人の価値を尊重し、我々が分かち合っている環境を大切にしよう心をもつよう励まさなければならない。(後略)</p> |
|--|

そして、具体的保育内容の示されている「2. 目標と指針」「2・1規範と価値観」には表9のように記述されている

表9 ナショナルカリキュラム「2・1規範と価値観」より

|  |
|--|
| <p>目標 (中略)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンであること、尊敬の念、連帯の心、責任感を持つこと</li> <li>・他者を思いやる能力、他者の状況を思い、その人の身になって考え、他人を助けることを望む</li> <li>・日常生活の中にあるさまざまな倫理的葛藤や生き方の課題を発見したり、それに反応したり、態度を決定する能力をもつ</li> <li>・すべての人間は、社会的なバックグラウンドに関わらず、性別、国籍や民族性の違い、宗教あるいはその他の信仰、性的傾向、機能の遅れがあるかないかにかかわらず、同等の価値をもつことを理解する</li> <li>・すべての生けるものを尊敬し、自分の身近な環境を大切にす</li> </ul> |
|--|

この表9の内容を見ても理念は理解できるが、日本と根本的な考え方、現状と乖離しており、最初にも述べたように目標とすべきことは多くあるが、直接的に参考とすることはできない。

#### 参考文献

- 1) 大野歩 (2015) 「スウェーデンの保育改革にみる就学前教育の動向—保育制度と『福祉国家』としてのヴィジョンとの関係から—」『保育学研究』第53巻第2号、pp110-125。
- 2) 白石淑江 (2017) 「スウェーデン王国」『なぜ世界の幼児教育・保育を学ぶのか』(泉千勢：編) pp65-101。
- 3) 白石淑江・水野恵子 (2013) 「スウェーデン 保育の今—テーマ活動とドキュメンテーション—」かもがわ出版。
- 4) 鶴宏史 (2004) <翻訳> 「スウェーデンのカリキュラム」『OECD “Five Curriculum

- Outlines-Starting Strong Curriculum and Pedagogies in Early Childhood Education and Care”『社会問題研究』第57巻2号、pp179-187。
- 5) 山本理絵 (2017) 「小学校への移行期の生活と保育・教育方法に関する一考察—スウェーデンにおける教育ドキュメンテーションとプロジェクト活動の調査から—」『人間発達学研究』第8号、pp71-87。
- 6) リンドグレーン (2006) 『長くつ下のピッピ』岩波書店。